

1. 評価結果概要表

平成 20年 11月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400620		
法人名	有限会社 とき		
事業所名	グループホームかあちゃん家		
所在地	長野県長野市鬼無里11491-4 (電話) 026-256-2216		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(20年 10月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤8人	非常勤5人 常勤換算7.7人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要 (10月 30日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		要介護2	2名			
要介護3	6名	要介護4	1名			
要介護5		要支援2				
年齢	平均	86 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鬼無里診療所・鬼無里歯科診療所・長野赤十字病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野県庁より鬼無里方面へ40分くらい車を走らせると山々に囲まれた『かあちゃん家』に着く。首を40度ぐらいに傾けると青い空と黄・赤・緑の山々がある。言葉をなくし見入ってしまう素晴らしい環境である。この地域では、「ちょっと母ちゃん家に行って来る」といって出かけるのが常だそう。管理者が「かあちゃん」かもしれないし利用者の方々が「かあちゃん」かもしれない。「かあちゃん家」が母ちゃんなのかもしれない。住み慣れた地で見慣れて人々と暮らす幸せを感じ取られた。地域の人々が当たり前にお年寄りに関心を持って見守りをしてくれること・ホームが当たり前地域に溶け込む姿に感心させられた。入居者の方々の穏やかな笑顔が今の生活を物語っているように思えた。利用者も職員も「かあちゃん家」の一員として居場所があるという言葉に納得が出来た。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善点無し。管理者は、毎日の生活の中で課題を見つけ自己啓発に努めている姿勢が伺われた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者のもと職員が自己評価に取り組んだ。毎年行われているがあたりまえのことを当たり前と感じられる機会が出来てよかった。毎年の結果も職員・家族会に報告し以後の生活ケアに役立っている。ホームの玄関にも評価結果が、置かれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	二ヶ月に1回行われている。家族会の方々の出席もお願いしている。運営推進委員会では、委員の方々からホームの経営などの面にも積極的に発言を頂いている。収支の報告もして委員・家族・地域住民の方々の了解を得ている。消防訓練などホームだけに留まらずに、地域消防団・地域住民の方々へ働きかけもされている。地域の診療所の先生の情報なども委員会で発表している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の方々の訪問時には、管理者ならびに職員が、家族よりの意見を聞き働きかけをしている。苦情などは無いが家族の心配事や悩みなどを聞くことで入居者と家族の関係を取り持つことが出来た事もあった。長野市よりあんしん相談員の派遣を受け入れ、家族会にも出席していただき、多くの意見が得られる工夫をされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との交流は、設立当初より活発に行われ継続している。地域の方が収穫した大豆の選別を入居者の仕事として受け入れ喜ばれている。小中学校との交流も盛んである。当たり前年を取って行く姿を見て、子供たちが当たり前に関わりを持ち、お年寄りにいたわりと優しさを持ち、交流している。地域がらかもれないが多くの人に知っていただきたいホームです。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「かあちゃん家」を設立の動機が「地域の人々がこの地で過ごせること…」を想いスタートした。法人理念「住みなれた地で、今のこの時を一番大切にするとともに過ごすお手伝いをさせていただきます」とされており、グループホームの「目的」が作られている。日々の生活で実践されている。玄関に理念が掲げられていて、訪れた人が目にする事が出来る。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティング時・定例会などで理念を共有できるように話している。職員は理念を自分の言葉で解釈し、日々の利用者との生活に活かしている。今後もかあちゃん家の顔でもある理念の共有に取り組み、継続していただきたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は活発に行われている。小学校・中学校との交流があり、ホームでのやしょうま作り・クリスマスなどの行事に近所の住人を招待し一緒に楽しんでいる。地域活動にもホームとして参加し、中学生のボランティア訪問も受け入れ、「何をやって欲しいですか?」との問いに窓拭きをお願いした。地域の方々が常にホームを地域の仲間として考えてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成16年10月開設より今回で4回目の外部評価であるが毎回職員と管理者が話し合いの場を持ち、自己評価に望んできた。反省・新たな問題点の発見につながると言う。評価結果を定例会で話し合い、改善につなげる努力をしている。外部の方にも評価の結果を公表している。		

グループホームかあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族会代表・民生委員・地域包括支援センター職員・地域会長・地域女性代表・認知症に対する認識者・利用者で構成され二ヶ月に1回の割合で開催されている。運営推進会議では、現状報告にとどまらず、さまざまな方面から話し合いがされている。委員の方々からも積極的に議題の提案などもある。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>あんしん相談員の派遣をお願いして、運営に関する相談・助言を求めて連絡を取り合っている。また、市で実施する介護者の研修には講師として協力している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回ホーム便りが発行されている。利用者の家族のもとへ送られている。ホームでの日頃の生活が伺え、家族には嬉しい便りである。預かりの小遣いは、小遣い帳が作られていて、家族の方が来訪された時に見てもらい、確認印を頂いている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱が置かれているが苦情は現在まで無い。市のあんしん相談員も派遣されてきているが、相談員からの話も聞かされていない。家族の方が面会に来た時に管理者に悩みなどの相談を受けることが多くあり、管理者・職員が話を聞いている。家族会が年2回開催され、一回を地域の人と勉強会の場としている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は地元出身者が多く、以前からの顔なじみの関係が続けられている。開設以来、職員の退職は無い。</p>		

グループホームかあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には参加して、資格を取れる受験対象者には管理者が積極的に働きかけ、手助けをしている。研修参加者は報告書を作成しホーム職員に伝達している。職員の研修に対する意欲が、強く感じられた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者だけでなく職員もネットワークの会議に参加している。他のグループホームとの交流もあり、他のグループホームを見学することで自分のホームと比較し、違った考えや方法を見出す場となり、勉強になると言っていた。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>近隣の地域の方の入居が多く、ホームから利用者の家が見えたり、職員も昔からの馴染みであったり利用者の不安な要素はあまり無い。入居希望者は、利用者・家族にホームまで来ていただき判断していただいている。管理者は、職員にも意見を聞き判断している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>地元の方の入居が多く、以前からの呼び名で呼び合ったり昔話をしたり生活を楽しんでいる。若い職員などは、利用者と共に分からない事柄を良く知っている利用者に聞いたりしていた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりへの話掛けをするように努めている。体調など悪く意思の疎通が出来ない時には、職員同士で考える。表情の読み取り・少しの会話から複数の職員で判断をしている。会話の中身でなく、話されることを聞き逃さないように注意している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に、利用者・家族の希望を聞きプランの作成を行い、職員の意見も聞きながら作成し定例会等で報告している。家族へプランの報告も行っている。ケアプランについて医師などを含め専門家の意見を聞く場合もある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に定期的な介護計画の見直しをしている。変化があるときは、随時見直しを行っている。又変化のない方に対しては毎月の定例会で話し合い、モニタリングを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医者への受診に職員が付き添いをしている。グループホームのみの経営であるが、利用者の希望・要望に出来る限り対応をしたいと言う姿勢である。</p>		

グループホームかあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>鬼無里という場所から、鬼無里診療所の所長がかかりつけ医となっている。入居時に家族への説明・了解を得ている。随時の受診、往診を行い、専門医療の必要な時は専門医や入院機関への紹介も行い安心した関係が築かれている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームで数件の、看取りが行われた。看取りを行う中で互いの信頼関係の大切など得るものも大きく、そんな中から「重度化した場合における指針」が作られた。入居してしばらくしてから、「病気悪化時対応についての希望」を利用者・家族それぞれから頂いている。家族・医師・職員の話し合いで看取りの対応を決めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いについては、入居時に説明をしている。耳の遠い方を呼ぶ時も、耳元で話をしていく。居室に入る時も必ず入居者に声をかけ入室している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者本位で一日が動いている。買い物などに行きたい利用者の希望があれば、付き添いを行っている。お天気が良いとお弁当を作り外出を楽しんだりしている。入居者一人ひとりの居場所があり、中心になっている生活を感じられた。</p>		

グループホームかあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊き上がったばかりの白いご飯と利用者と職員で作った野菜を中心に料理されていた。調理作業を見守りの方や、直接作業に加わったり、利用者それぞれが出来ることをして参加している。数日後の新聞に「一汁三菜」の良さが書かれていた。かあちゃん家の献立は理想の献立だった。薦め上手の職員もいて利用者は、全員が完食していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として週に三回入れるようになっているが、入居者の希望で毎日でも入れる。夏場の暑い時は、短時間で汗を流したいという希望にも沿っている。又時間も職員の都合がつく限り、柔軟に対応している。車椅子の方は、職員が2人で介助して入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりがやりたいことを支援している。畑仕事・収穫・など入居者がいつも作業ができるように準備している。散歩も全員でなく、行きたい人が行く。敷地内に、利用者と職員の共同作業で作られた干し柿が沢山吊るされていた。それが完成すればお茶の時間に食べるのだろうと思った。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は、近所を散歩している。ホームの畑が家の周りがあるので、収穫に出かけたり、作業に出かけたり自由に出入りしている。近所の方々がホームの利用者を認識していただいているので地域で見守りがされている感じがした。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。管理者は万が一の時を考え、なるべく居室の窓の鍵もかけないと言っていた。救急の場合、窓から救出も考えているからだという。訪問当日も昼食後に利用者の方が、玄関から一人で外出してしまったが職員が遠巻きに後から付いて行って、見守りの体制作りが出来ていた。		

グループホームかあちゃん家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の避難訓練を実施し、昼間の訓練と夜間の訓練を行っている。ホームから近隣の美里地区住民に「避難訓練へのお願い」の便りを1軒づつ配布して協力の参加をお願いしている。地区自主防災会・消防団・中央消防署鬼無里分署・地域住民で訓練が行われ、両方の避難訓練に利用者が参加している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が居て、栄養計算をして献立を作成し実行した事もあった。現在は、以前の献立をもとにアレンジしつつ、台所にある食材で利用者と共に何を食いたいと考えながら対応している。10時と15時と20時のお茶の時間と食事の時に水分を取っている。体重のチェックと排便・尿の個人記録が付けられている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広いホールに地域の方々よりテーブル・ソファの寄付をしていただき配置されている。居間には、炬燵と自慢の薪ストーブがあり、利用者の憩いの場となっている。玄関には、中学生の作品で長椅子が置かれていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>落ち着いた部屋の飾りがされている。フローリングの部屋とたたみの部屋があり、ベット使用の方・布団愛用の方さままである。利用者の部屋からは山や川が見え、心が落ち着く感じである。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。